

患者さんに間欠導尿を紹介する にあたって



GO FOR
GOLD

間欠導尿を始める

医療従事者である皆さんは、患者さんが間欠導尿（IC）を開始して継続できるように教育し、意欲を引き出す重要な役割を担っています。IC は有効で、便利な、患者さんによる自己管理さえ可能な治療法であり、これを利用すれば、より自立して、充実した人生を送る機会を得られます。

しかし、IC を始めることを不安に思う患者さんもいるでしょう。皆さんは患者さんの疑問に明確に答え、懸念事項に関する情報を提供することで、その不安を和らげる手助けができます。そうすることで、今度は皆さんが患者さんの懸念事項についての具体例や、それらを解決するための支援方法についての助言を得られるでしょう。

前向きに IC を 始めるために

患者さんの心配事を解決する

まず、身体の健康と生活全体の質に IC がもたらす様々なメリットについて、患者さんにしっかりと理解してもらいます。¹

生活の質を改善してくれる IC の メリット¹⁻²²

以下を含めた神経因性膀胱の症状の緩和

- ・ 尿意切迫、頻尿、失禁
- ・ 尿閉
- ・ 夜間に起きて排尿する必要がある

自立の促進

- ・ 膀胱と生活をコントロールできるようになる
- ・ 留置型カテーテルや蓄尿バッグなどの外部機器を装着する必要がなくなる

合併症のリスクの低下

- ・ 尿路感染症
- ・ 尿道の炎症、外傷、出血
- ・ 膀胱や腎臓の結石
- ・ 膀胱や腎臓の損傷

生活習慣の最適化

- ・ 社会的活動やスポーツに参加する能力を高める
- ・ 安心感、自由感、自尊心を高める
- ・ 性的能力や生殖能力を高める

患者さんの心配事を解決する

痛みますか？

挿入中の痛みや不快感、損傷を恐れる患者さんもいますが²³、大多数の患者さんは IC に伴う痛み¹²や不快感がまったくないか、最小限であると感じていることを示すエビデンスがあります。²⁴

危険ですか？

いいえ。正しく行えば、間欠導尿は患者さんの泌尿器系を健康に保ち、内臓を保護する最善の方法です。¹

日常生活にどう影響しますか？

患者さんに、日常生活に取り入れられる習慣を考えてもらいます。日々どのような活動に取り組む必要があるかを明確にしてもらい、1 日の様々な時間帯に忘れずに導尿できる方法を指導します。カレンダー、時計、腕時計などの簡単なリマインダーツールがよいでしょう。一度習慣になれば、日常生活に取り入れることができます。

習得は難しいですか？

IC は最初こそ多少扱いにくいかもしれませんが、患者さんが自信を持って安全に実施できるようになるまでそう長くかからないでしょう。どれくらいの時間を要するかは、怪我の程度、手先の器用さ、そしてどんなことにも言えますが、練習量によって異なります。

恥ずかしい思いをしますか？

多くの場合、その逆です。他の膀胱管理の手段と比べて、IC はむしろ患者さんの自尊心を高めることができます。

自分と同性の看護師に対応してもらえますか？

患者さんが異性の看護師に対応されることを恥ずかしがる場合は、医療のプロとして対応することを伝えて安心させ、希望があれば、同性の看護師が IC の実施や患者の講習を担当するよう手配します。自己導尿を促すこともできます。

参考文献

1. S. Vahr, H. Cobussen-Boekhorst, J. Eikenboom, V. Geng, S. Holroyd, M. Lester, I. Pearce, C. Vandewinkel. Evidence-based Guidelines for Best Practice in Urological Health Care. European Association of Urology Nurses (EAUN) 2013.
2. Turi MH, et al. J Pak Med Assoc 2006;56(9):401-4.
3. Bakke A, et al. Br J Urol 1997;79(1):85-90.
4. Nazarko L. Br J Nurs 2009;18(2):110-5.
5. Verpoorten C, Buyse GM. Pediatr Nephrol 2008;23(5):717-25.
6. van Gool JD, et al. Monatsschr Kinderheilkd 1991;139(9):592-6.
7. Chai T, et al. Paraplegia 1995;33(3):161-3.
8. Vaidyanathan S, et al. Spinal Cord 1998;36(6):409-14.
9. Getliffe K, et al. J Wound Ostomy Continence Nurs 2007;34(3):289-96.
10. Robinson J. Nurs Stand 2007;21(29):48-56;quiz 58.
11. Esclarin De Ruz A, et al. J Urol 2000;164(4):1285-9.
12. Kessler TM, et al. NeuroUrol Urodyn 2009;28(1):18-21.
13. Pascoe G, Clovis S. Br J Nurs 2001;10(5):325-9.

職場ではどうなりますか？

何千人もの患者さんが成功しているように、IC の習慣を把握してしまえば、日々の勤務生活に IC を取り入れることができるでしょう。1 日の中で最適なタイミングを探すことが重要です。

性生活はどうなりますか？

IC を使って尿禁制を回復することで、患者さんの性的能力に好影響を及ぼし、精液の質を改善することができます。

協力を得られますか？

十分な支援やサポートがないことを心配する患者さんもいます。²³ 適切な情報を必要な時に提供することで、常に患者さんを勇気づけ、励まします。患者さんは 1 人ではなく、いつでも自分や他の医療スタッフに質問して良いのだと伝えます。

患者さんが適切なカテーテルを選択できるよう支援する

適切なカテーテルを見つけることは個人差の大きい選択であり、最初に試したカテーテルがその患者さんにとって最良ではないかもしれません。

ある調査によれば、良い導尿習慣を続け、それにより膀胱の良好な状態を保つためには、カテーテル製品に満足していることが重要と言えます。²⁵

したがって、患者さんに最も適していて、生活の支えとなるカテーテル製品を見つけることが重要です。

14. Naik R, et al. Gynecol Oncol 2005;99(2):437-42.
15. Oakeshott P, Hunt GM. Br J Gen Pract 1992;42(359):253-5.
16. Wyndaele JJ, et al. Eur Urol 1980;6(2):107-10. 17. Shaw C, et al. J Adv Nurs 2008;61(6):641-50.
18. Igawa Y, et al. Int J Urol 2008;15(6):481-5.
19. Pilloni S, et al. Age Ageing 2005;34(1):57-60.
20. Luoto E, et al. Sairaanhoidaja 1993(1):17-20.
21. Cardenas et al: Intermittent catheterization with a hydrophilic-coated catheter delays the occurrence of urinary tract infection in patients with acute spinal cord injury: A prospective, randomized, parallel, multi-centre trial. PM R 2011;3:408-417.
22. Weld et al: Effect of bladder management on urological complications in spinal cord injured patients. J Urol 2000;163:768-772.
23. van Achterberg T, et al. J Clin Nurs 2008;17(3):394-402.
24. Lopez Pereira P, et al. Actas Urol Esp 2001;25(10):725-30.
25. Barbosa et al. 2012.